

— 冷水病対策研究 —

後藤悦郎

目 的

全国でアユに甚大な被害をもたらしている冷水病は、当県の各河川においても相当の被害をもたらしているためその被害の軽減を計る。

方 法

県内産人工種苗は定期的に江川漁協種苗生産施設及び高津川漁協中間育成施設を巡回して冷水病菌の保菌検査を行った。また、琵琶湖産種苗及び他県産海産種苗は放流時或いは放流後にできるだけ速やかに冷水病菌保菌検査を行った。

種苗の河川放流後は、各河川漁協等と情報交換を行い、へい死魚発生時には冷水病によるへい死かどうかを検査した。なお、冷水病菌の検出方法は改変サイトファーガ培地による培養法か PCR 法のいずれかで実施した。

今年度は冷水病の発生と感染の拡大防止を計るために、各河川漁業協同組合及びアユ養殖業者への指導、防疫の強化を行うための取り組み方針を検討した。

結 果

冷水病検査及び調査指導状況の結果を表 1 に示した。

各河川におけるアユ冷水病発生状況は例年の発生動向と同様であり、6月中旬から7月中旬までと夏場の回復期を経て水温が低下する 10 月から 11 月までの 2 回の山が見られた。

数河川では上流部において解禁後にアユの魚影が少ないため調査を行った。原因は冷水病による斃死被害と降雨増水により衰弱したアユが流下して生息量が減少したものと思われる。

アユ養殖業者には冷水病が発生せず、良好な成績で推移した。

次年度以降の冷水病への取り組み方針を検討した結果、年度末に方針を策定することが出来た。具体的には冷水病はこれまで内水面水産試験場がほぼ単独で対応していたが、今後は内水面水産試験場を中心として行政を含めた体制で実行すること、各河川に放流されるアユ種苗（特に県外産）の来歴把握の徹底を計ること等である。来歴の把握については「島根県あゆ種苗来歴カード」を作成し各河川漁業協同組合に配布、記入してもらうこととした。来歴カードの流れの概略を図 1 に示した。年度末には策定した取り組み方針について各河川漁業協同組合及び養殖業者を巡回して説明を行った。

表1 冷水病対応状況

月日	魚種	場所	調査内容等	備考（対策・指導等）	
4/11	アユ	出雲市	放流用種苗冷水病保菌検査	冷水病症状あり	
4/19	アユ	益田市	飼育種苗疾病検査		
4/19	アユ	旭町	放流用種苗冷水病保菌検査		
4/23	アユ	旭町	放流用種苗冷水病保菌検査		
4/23	アユ	三刀屋町	巡回指導		オゾン効果試験指導
4/27	アユ	旭町、三隅町	放流用種苗冷水病保菌検査		
4/26	アユ	三刀屋町	放流用種苗冷水病保菌検査		
5/1	アユ	三刀屋町	放流用種苗冷水病保菌検査		
5/5	アユ	旭町	放流用種苗冷水病保菌検査		
5/7	アユ	三刀屋町	放流用種苗冷水病保菌検査		
5/9	アユ	出雲市	放流用種苗冷水病保菌検査		
5/11	アユ	川本町	放流用種苗冷水病保菌検査	オゾン効果試験指導	
5/14	アユ	三刀屋町	巡回指導		
5/18	アユ	金城町、三隅町	放流用種苗冷水病保菌検査		
6/11	アユ	益田市	河川内へい死原因検査	冷水病	
6/12	アユ	佐田町	河川内へい死原因検査	冷水病	
6/28	アユ	瑞穂町	河川内へい死原因検査	冷水病	
7/9	アユ	三刀屋町	巡回指導	冷水病	
7/11	アユ	旭町	河川内へい死原因検査		
10/25	アユ	桜江町	河川内へい死原因検査	冷水病	
12/4	アユ	江津市	放流用種苗冷水病保菌検査	グルギア症	
1/15	アユ	益田市	放流用種苗冷水病保菌検査		
1/31	アユ	益田市	放流用種苗冷水病保菌検査		
2/15	アユ	益田市、江津市	放流用種苗冷水病保菌検査		
3/15	アユ	益田市、江津市	放流用種苗冷水病保菌検査		
3/25	アユ	三刀屋町	巡回指導		
3/26	アユ	金城町	巡回指導		
3/27	アユ	益田市	巡回指導		

